

自由記載欄(「ご意見・ご要望があれば自由にお聞かせください」への記載)

子育て王国を語るわりには、子育て世帯への恩恵はさほど感じられません。子どもをもう一人欲しいと思っても、この物価高でためらってしまい、40も手前になり、もう無理かなと思っています。子ども一人あたり毎月1〜3万では足りません。せめて一人あたり毎月 5〜10 万くらい手当がいただけるのであれば、まだ頑張ろうかなと思えます。

◆(30〜39 歳 女性 東部)

鳥取で生まれ、50 年前に上京し、4 年前に U ターンで帰ってきた鳥取ですが、半世紀前と比べ何が変わったかを考えた時、街は進化し便利になったと思う反面、当時活気のあった町ではありません。時代は変わったといえればそれまでですが。県には、人のふれあいが感じられる街づくりを期待します。

◆(60〜69 歳 男性 東部)

とにかく人口減少を食い止めてほしい。今は男女共同参画や定住支援などの施策は一時保留して、魅力のある鳥取県となるための施策に注力してもいいのではないかと思います。鳥取県のために頑張ってください。

◆(60〜69 歳 男性 東部)

鳥取県は素晴らしい場所です。しかし、若者が定着するには厳しい場所です。日々のニュースでは東京など都会の情報ばかりがあふれています。圧倒的な強みがないのが鳥取の現状です。鳥取に足りないものは何なのか。机上で語るのではなく、現場を見て判断してほしいです。物価上昇に対し、一向に上がらない給料。娯楽の無さ。弱いインフラ。やることはたくさんあります。前途多難ではありますが、より良い鳥取県にするためによりよくお願い申し上げます。

◆(40〜49 歳 男性 中部)

人口減少は県内の若い人が他県に進学・就職・出会いを求めて出てしまうからではないでしょうか？企業を増やし、中学・高校・大学出とかをなくし、誰でも入れる企業、給与・ボーナスを増やす。企業は、パワハラ・暴力・暴言・ハラスメントをしないように取り組むと、長く効率良くいくのでは。

◆(20〜29 歳 女性 東部)

「町が消滅する」最近よく耳にするが、都会でなく地方に住む私には特に現実的に感じている。結局は、交通の便、買い物の便、通院の便を考え、町内の中でも、よりその条件に近い所に引っ越すことも考えています。3〜4 戸に1戸が空き家の現状で現実を直視して、さらに厳しくなる事を想定して暮らしています。

◆(70 歳以上 男性 中部)

「子育て王国とっとり」はいいのですがそっちの方ばかりにお金を使い過ぎだと思います。独身の人、子供がいない人、子育ては終わった人もたくさんいます。私が学生の頃、今の人達よりもはるかに頭が良くて勉強やスポーツをがんばっていた人がたくさんいました。その中にはいわゆる就職氷河期のせいで結婚就職などの夢をあきらめた人もたくさんいました。あの当時、国が色々支援してくれたならここまでの少子化にはなっていないはず。行政には責任を感じてほしいです！

◆(50〜59 歳 男性 西部)

森林をなんとかしてほしいと思う。数 10 年前に植えた木が手入れされず伸び放題。えさがなく鹿とかが畑を荒らす。雑木を植えて、えさができれば鹿も来なくなると思うのだが、すぐに結果は出ないが、放っておくとますます悪化してしまう。それと豊かな水をずっと享受できる県であってほしい。

◆(50〜59 歳 女性 東部)

物価高で人付き合いも思うようにできなくなりました。たまに会うとしゃべり疲れてぐったりしてしまいます。それでも地域貢献には少しでも役に立ちたいと思っています。参加しやすいものがあれば情報がほしいです。

◆(50〜59 歳 女性 西部)

児童虐待など、これからの住みやすさよりも、今の問題に目を向けてほしい・例えば、再婚相手からの子どもへの虐待が多いことなどから、もっと行政は防止できることがあるのでは？と思う。”ひとり親家庭”の現在の生活状況など細かく調査(学校とも連携をとる)してもいいと思う。 ◆(50～59 歳 女性 西部)
若い世代と過す仕事をしております。よく彼らからきくのは、土・日に「過す所がない」と聞きます。それぞれの興味もちがうかとは思いますが、これが、若い方がなかなか定着しない理由かなと県外から来た私は思います。鳥取へきて36年ですが、あまり変わっていないように思うのは私だけなのでしょうか。ちらっと思いました。しかし自然は最高です。 ◆(60～69 歳 女性 東部)
公共交通機関 バス・JR の減少がひどすぎます。もう少し増加して頂きたい。 ◆(60～69 歳 男性 東部)
さまざまな施策が行われていると感じるが、相談等したくてもどこに、誰に、言っていけばよいのか分からない人が多いと思っています。今すこし周知徹底していただければと思います。 ◆(70 歳以上 女性 東部)
鳥取はすごく良い場所なのに、イマイチ県外の人に魅力が伝わっていないので、残念です。鳥取に住む人達の温かさや、自然の豊かさなどをもっと広める機会があれば良いのになと思います。また、魅力は伝わっているけど、中々来ることがないという原因の1つに公共交通機関が整っていないというのもあるので、難しいとは思いますが、整備が必要だと思う。「鳥取を変えたい」と思う若者は意外と多いと思うので、もっとみんなで鳥取を変えるチャンスがあればなと思います。 ◆(20～29 歳 女性 西部)
子育ても大切ですが、介護者・高齢者への何かしらの支援がほしい。 ◆(50～59 歳 女性 中部)
子育て支援に関して、東部、中部、西部分け隔てなくサービスを提供していただきたい。住民票のある地区でしかサービスを受けられないという制度は就業する上で不利益になり得る。 ◆(30～39 歳 女性 東部)
公共建築は、単なる施設ではなく、地域の未来をつくる社会的な資産だと考えます。もちろん限られた予算の中で整備することは大切ですが、安さだけを優先するのではなく、長く使われ、地域の人に愛される質の高い建築や空間をつくることにも価値があると思います。公共建築に適切な予算をかけることは、単なるコストではなく、次の世代への投資だと考えます。 ◆(18～19 歳 女性 西部)
金銭的に生きづらい 物価と給与が見合わない 正規雇用で働いていても、家計は赤字 何か支援の体制を整えてほしい ◆(30～39 歳 男性 東部)
子どもがまだ産めるし、まだ産みたいけど生活費が足りないからと諦めてる方はたくさんいます。仕事復帰出来なくなるからと諦める方も。育休がとれる男性はほぼいないと思います。取れるのは一部の会社だけ。我が家も3人目の産後一週間だけ有給休暇しか取れませんでした。子育てしやすい環境作りにしてください。婚活パーティーしても意味はほぼないです。あとどういう県政をしてるかアピールしてほしい。県が何をしてるか伝わってないです。ニュースで取り上げてないと分かりません。子育て家庭はニュースも見ません。 ◆(40～49 歳 女性 東部)

トップセールスとしての知事のメディア等の露出で、鳥取県の好感度や知名度アップは効果的だと思う。子育て世代だと、就労先企業の多さも大切だと思うが、医療・教育面の補助金の有無や種類の多さは、今現在でも家計が助かっているが、より充実すれば全国上位の子育て易さをアピール出来ると思う。 ◆(40～49 歳 男性 東部)
農業の仕事の手伝いを始めて 10 数年になるが、田畑の耕作放棄地が増えていくスピードに驚いている。担い手不足はかなり深刻な状況では。自治体が準備した研修施設(ハウスなど)を見学したこともあるが、あまりにもお膳立てされ過ぎていて、いざ自分で始めるといった時に同様の施設、設備ができるのだろうか？と疑問を持った。現状、現実には寄り添った取り組みをしなければいけないのでは？と思う。 ◆(50～59 歳 女性 西部)
人口減少は少ない移住者の取り合いになってしまっていると思う。少なくなる前提で、人が少なくなった地域をどう維持するかに傾注した対策が必要だと思う。また男女の意識差は、日々暮らす環境の中ですり込まれるもの大きいと思う。親や周りの大人の日々のふるまいを見て、男というのはこう、女というのはこうという意識が再生産されていく。子育て世代の意識を変えていくことがいちばん大事だと思う。 ◆(50～59 歳 男性 西部)
・出生率を 0→1 にすることも大切だけど 1→2 と続けていけるようにすることが一番近道であり、家族の大切さを学ぶ大事な機会だと思います。我が家が通う保育園では兄弟 3 人が当たり前のように多く、それは保育園に入園できるからこそ成立すると思います。さらには企業が多子家庭には 30 分でも早く帰宅できるよう働きかけてくれたらみんな余裕ができていいなと思います。・調整区域の緩和をして今ある土地をもう少し売買しやすくなると戸建てや住宅管理がしやすい(調整区域に持家ありですが老朽化していき管理がしにくいです) ◆(40～49 歳 女性 西部)
県外または東部、西部に行かなくても買い物やカフェを楽しめる、若者向けの施設や環境が中部に少なすぎると感じる。ドラッグストアとコンビニ以外のチェーン店を増やしてほしい。 ◆(20～29 歳 女性 中部)
行政が行っている施策をわからない、又は、知らないという人の方が大半であると思います。アンケートで得られる情報もどうかと思います。そもそも、県民への理解が必要。ともすれば、県民の理解がないまま、どこかの目線で行政は、どこに何を目標にするべきなのか。人口が少ない、だから悪いというよりも、人口が少ないからこそそのメリットを説く、反対にそれが必要とされる部分を探すべきかなと。都市部でできることでは、地方は、負けてしまいます。日本で初めては、難しいですが、世界で 2 番目なら、真似ができると思います。行政改革人材を柔軟な形でと思います。対話というよりも、雑談する場が必要かと。 ◆(40～49 歳 男性 東部)
自分は将来、地元を離れ都会で就職したいと考えています。大きな理由は、給与水準の高さや交通インフラの利便性など、若者にとって魅力的な環境が整っているからです。鳥取県にも素晴らしい企業はありますが、都会に比べると選択肢の数が少なく、魅力の発信が不足しているため、都会へ惹かれてしまうのが現状です。この課題を解決するため、県には若者向けの情報発信の強化が必要だと感じます。具体的には地元企業を紹介するだけでなく、SNS を活用して地元だからこその仕事の魅力を届けること。また、都会水準の働き方が地方でもできる環境づくりを進めることが、若者の定着につながると考えます。 ◆(18～19 歳 男性 西部)

私は東京から移住してきて 20 年になります。都会と比べるとゆったりと時間が流れるここでの暮らしが好きです。ただ、都会と比べると地下鉄はなく、バスなどの本数もすくなかったので、車で移動しなければならず、車を購入して運転を練習しました。都会から来た方で同じように苦労した方を知っています。またIターンの人たちは地域に馴染むのに時間がかかります。なので、長期間サポートしてあげる必要があるかと思います。慣れればとても良いところなのでそういったサポートがあれば良いなと思います。

◆(40～49 歳 女性 西部)

若い人の雇用、子育てに焦点を当てるのではなく、年配の方々の雇用促進や、介護生活にならないための施策等、増えている年配の方々への施策の方が急務だと思われます。無駄に外国人を雇用するより、そういった方々を大事にする方が地域も元気になると思います。子育て王国とっとりではなく、永遠の楽園とっとりの方が県民が元気で生きていけるのでは。色々支援したところで、県外流出するなら、今居る人を大事にすべきだと思います。

◆(40～49 歳 女性 東部)

自治会や商店会でも加入者が少なく地域の活動や伝統行事もできにくくなっています。高齢化や介護への従事、人口減少に伴うだけでなく、就業世代の横の結びつき意識の低下が大きいと思います(特にコロナ禍以降)。住民同士のクレーム処理やトラブルの仲裁でなく隣近所のあたたかで豊かなコミュニティづくりを推進していきたいと思いますが、意識のちがいがから輪が広がらずなかなかうまくいきません。

◆(50～59 歳 男性 西部)